

2021 年度 織田ファッション専門学校

学校関係者評価報告書

(令和 3 年度)

評価対象期間

2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

織田ファッション専門学校

学校関係者評価委員会

1. はじめに

2021年（令和3年）4月1日～2022年（令和4年）3月31日を評価対象期間とした自己点検評価報告を元とした織田ファッション専門学校学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここにご報告いたします。

本校が社会およびファッション業界に対して高い価値を提供すべく、より良い教育を目指すため、委員の皆様にご評価とご意見をお伺いいたしました。学校関係者評価の結果を踏まえ、学校運営の更なる改善と教育の質向上に努めて参ります。

開催日：2022年4月25日（月）15：00～16：30

会 場：織田学園第8校舎 グリーンホール

2. 学校関係者評価委員（敬称略）

氏名	所属	役職等	種別
山野 晴雄	多摩地区高等学校進路指導協議会	顧問	元高等学校教員
辻 庸介	株式会社 辻洋裁店	取締役会長	企業等委員
松野 仁美	フリーランス	スタイリスト	卒業生

3. 自己評価に対する学校関係者評価委員の評価方法

学校より自己評価の各項目について関連資料を交えて報告と説明を行い、自己評価の評価点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切・未実施…1）が適切か適切でないかを学校関係者評価委員3名よりそれぞれ評価をいただいた。

4. 自己評価に基づく学校関係者評価

【1. 教育理念・目標・育成人材像】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
理念・目標・育成人材像は、定められているか。	4	適切 3名
学校における職業教育の特色が明確になっているか。	4	
各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	

学校の教育理念に沿った①アドミッションポリシー ②カリキュラムポリシー ③ディプロマポリシーを設定または改訂できたか。	4	
---	---	--

<ご意見・評価等>

○学校案内・HP で織田ファッション専門学校の強み、目指せる職業などを明記している点が評価できる。

○既に明文化されているとある 3 つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）についても HP で公開するのが望ましい。

○卒業生である私は、在学時はインターンの機会を探す側として、卒業後はインターン希望の学生を探す側として、学校にはマッチングに協力してもらっている。

○出版社とのコラボレーション授業も実施されており、実践的な教育を行っている点で評価できる。

○グローバル化の中でファッション業界が長期の低迷期に入っている昨今、学生の考える力を育むことは彼らの自主性に繋がると考える。

【2. 学校運営】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
教育理念・目標に沿った運営方針が策定されているか。	4	適切 3名
外部関係者の評価（教育課程編成委員会）を有効に活用できたか。	4	
現場経験のある教員やファッション業界で活躍中の卒業生の活用は促進できたか。	4	
外部企業等に強い外部講師等は有効に活用できたか。	4	
学生のニーズは把握できたか。	4	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	

<ご意見・評価等>

○概ね適切に学校運営が成り立っていると思われる。

○業界のニーズに沿った人材育成を続けていただきたい。

○授業アンケートを学生対象に実施されていることは今後も継続されることを望みたい。

○企業とのコラボレーション企画を多用して社会のニーズを職員一同で考えることが重要である。学校の未来を担う若い教職員の中からさらに良い提案が浮かんでくると思われる。

【3. 教育活動】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか。	4	適切
教育カリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3名

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立って、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	
実践的な職業教育（産学連携教育、インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	4	
授業評価を実施し、その評価体制はあるか。	4	
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	
教員の研修・自己啓発は促進できたか。	4	

<ご意見・評価等>

- 授業は企業との連携も含め、実践的な職業教育が行われていると判断できる。
- 先も挙げたが学生からの授業評価の実施が望ましい。
- 対面授業とオンライン授業を効率的に組み合わせることの検討も進めてもらいたい。
- 実践的な職業教育を強化している印象を受ける。企業とのコラボレーション授業の実施やインターンシップ機会の提供など、学生が夢に近づく感覚を味わえるシーンを積極的に作ってあげていることは今後もアップデートしつつ継続していただきたい。
- 特にキャリア教育が大切だと感じる。企業は昨今、即戦力を求めがちなので、学生にしっかりと基礎を身につけさせることが必要である。彼らが目的意識を持ち自身の未来を切り拓いていくことを期待する。

【4. 学修成果】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
生活支援の充実化は図れたか。	4	適切 3名
教育支援の充実化は図れたか。	4	
就職支援の充実化は図れたか。	3	

<ご意見・評価等>

- コロナ禍で就職が厳しくなっている業界もあるので、就職支援にはとりわけ力を入れ、学生の将来を見据えた指導に邁進していただきたい。
- 生活面や精神面で学習の継続が困難になる学生もいると思われるので、その支援も継続していただきたい。
- 時代に合わせた学校環境の整備や、地球環境への配慮を感じた。社会で当たり前となったタブレット端末等の電子機器を普段の授業で日常的に触れられることは、学生たちが卒業し、就職した後に良かったと思える経験だと考える。
- 現在の日本のファッション構造があり、尚且つコロナ禍での就職活動は学生たちにとって想像以上に厳しかったものと推察される。しかし、その後は新しい可能性の芽が見えてくると思うので、この正念場を乗り越えていってもらうことを期待する。

【5. 学生支援】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか。	3	適切 3名
心理検査(ハイパーQU)から得られた情報は適切に活用できたか。	4	
学生のメンタルヘルス対応は積極的に取り組めたか。	4	
卒業生への支援体制はあるか。	4	
学生情報の教職員間での共有は効果的に行えたか。	4	
保護者との連携は適切だったか。	4	

<ご意見・評価等>

- 退学者を少しでも減らせるように、心の問題を抱えた学生に対して担任やカウンセラーによる相談体制の充実・強化を図っていただきたい。
- 学生や保護者とのコミュニケーション機会の確保は引き続き大切にしていきたい。
- 現代日本においてメンタルに支障を抱えている人が増加している。コミュニケーションを活発化させることで、挫けない心を創ることもできると考える。

【6. 教育環境】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
卒業生・在校生・学校間のネットワーク構築への取り組みについて進捗・改善は見られたか。	3	適切 3名
施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	

<ご意見・評価等>

- Wi-Fi 整備など適切に環境整備が行われているので、授業への活用が期待できる。
- キャリアアップを卒業生に対しても広く周知していくことが必要だと考える。
- 卒業生である私自身、今でも同級生や学校との縁が続いている。

【7. 学生の受け入れ募集】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
数値目標(入学生数 80 名)は達成できたか。	4	適切 3名
OC 参加者の増加は達成できたか。	4	
OC からの取り込み率は向上できたか。	4	
学生募集における学校の訴求ポイントについて広報と協議の上で決められたか。	4	

広報物の訴求の一貫性を図れたか。	4	
広報物の制作にあたり、学校と広報とで意見交換が図られたか。	4	
広報担当スタッフとの連携を強化できたか。	4	
OC 時の参加者対応スキルの向上は図れたか。	4	
OC の結果等の分析や、コース内容のブラッシュアップ等について学校と広報とで十分な意見交換ができたか。	4	
SNS 等、学校の認知 PR は適切に行えたか。	4	

<ご意見・評価等>

○HP、SNS などで情報発信を適切に行っていることは評価できる。オープンキャンパスも学生の協力を得て実施されているとのことで問題はない。

○広報物をいつも工夫されていることが伝わる。

○高校訪問を定期的に行い、高校教員への認知を得る努力、校内ガイダンスへの参加などの取り組みも引き続き積極的に取り組んでいただきたい。

○OC 参加者が増えたことは望ましい。

○年の近い学生とのマンツーマン指導は、声を挙げるのが苦手な参加者にとって、安心してオープンキャンパスを楽しむ気持ちを醸成する要素になっていると考える。

○SNS をもっと強化しても良いと考える。

【8. 財務】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
経営感覚の教職員間での共有は図れたか。	3	適切
財務改善への取り組みは推進できたか。	4	3名

<ご意見・評価等>

○財務情報が HP に公開されていることは評価できる。

○全教職員に財務状況や中長期計画を周知するとともに、共通理解を図ることが重要である。

【9. 法令等の遵守】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
コンプライアンス意識を再確認できたか。	3	適切
自己評価の結果を公開しているか	4	3名

<ご意見・評価等>

- 最新の年度の自己評価、学校関係者評価の各報告書がHPで公開されている点は評価できる。
- 職業実践専門課程の認定校として必要な情報も公開されており適切であると判断する。
- 過去年度の報告書も閲覧可能な状況を作ることがより望ましいと言える。
- 今後修学支援制度の対象校となった際も十分な情報をWEBサイトで公開すべきである。

【10. 社会貢献・地域貢献】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
地域や地方公共団体と連携し、受託等を積極的に実施しているか。	3	適切 3名

<ご意見・評価等>

- コロナ禍で学園祭が中止になったことは残念だが、今後は感染症対策を行った上での実施を前向きに検討していただきたい。
- 「なかのまちめぐり」など、地域のイベントが再開された折には積極的に参画していただき、地域貢献に努めていただきたい。
- 感染症の状況もあると思うが、是非次年度は学園祭開催を実現していただき、学生たちに楽しい思い出を作る機会を提供してもらいたい。
- WEBショップの活用もひとつの社会貢献だと考える。

【11. 国際交流】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
留学生受入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか。	4	適切 3名

<ご意見・評価等>

- 留学生の入国も国の規制緩和で今後は増えてくると思われるので、留学生の受け入れも適切に行っていくことが望まれる。
- 国際交流機会の確保は準備を進めておき、再開の目途が立った際に対応できるように努めていただきたい。

5. 総評

○企業と連携した実践的な職業教育が行われているので、今後もファッション業界のニーズを意識したカリキュラムを導入しながら、学生の教育に努めるとともに最新の教育機器の導入や対面授業とオンライン授業の効果的な連携など、更なる教育の充実に努めていただきたい。

○ファッション分野の職業実践専門課程認定校として他校よりも専門教育を一歩リードさせた学校の地位を確立していくことを期待する。

○企業とのコラボレーション授業やインターンシップをはじめとした実践的な学びの場の提供は織田ファッション専門学校の強みだと感じる。今後も力を入れて取り組んでいただきたい。

○学園祭などの登校することが楽しくなるようなイベントや、学生と教員の何気ないコミュニケーションの場をもっと増やしていくことで、退学率も抑えていけるのではないかな。

○元来ファッション業界は個々の能力を発揮して産業に寄与していったことで発展していったと考えられる。しかし、企業が即戦力を求め、仕事を細分化したことで総合力を高めるのが難しい産業になったことが悔やまれる。特に技術を育てる職種は成長に時間が掛かる。ファッション業界は今、冬の時代である。教職員が前向きに希望を持って教育内容を充実させていくことでより発展していくと考える。次の時代を担う人たちの芽吹きを感じ、大切に育てていっていただきたい。

織田ファッション専門学校
学校関係者評価委員会